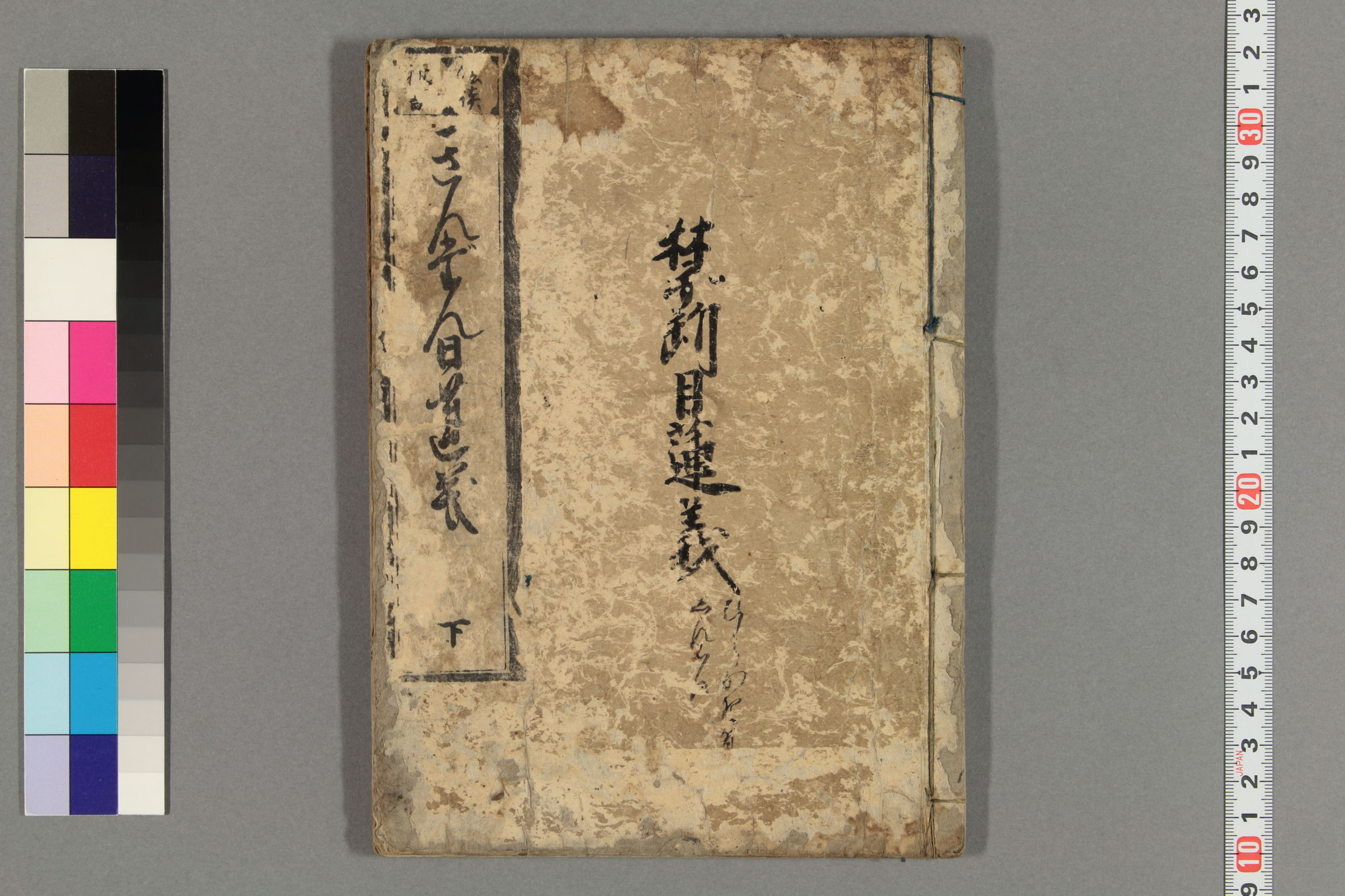

梵網経菩薩戒

下

法華経目連尊者授記下因縁

[illegible]

目蓮尊者の母の事

[illegible]

[illegible]

目蓮尊者の父の事

大きなるあやまりなる事

天台大師の摩訶止観と云る書に

[illegible]

[illegible]

目蓮なども目蓮ほとけ地獄の苦しみをとゝえ

下

法しうして冥はとろう事
天台宗摩訶流布のくらす
法花経の月輪観と云仏は他力
と云仏と除て弥の法華八の
四十八願と云仏女人根欠ぐ往生の
と云仏法華の三方門と綱まあらざる事
日蓮宗ぞ[illegible]くし大経感伏りまうす
日蓮みづから云ふ云ふ学生と云仏と仕ぐ
ふと云ふ破まるに自道こしもとくまとる
日蓮宗浄土宗の大乗の仏と能化往配と

まりとしてしうあう事
日蓮宗法宗の祖師とそうまそ仏文の冥
あてそもくまま
日蓮宗は久人の乳の墨を仰ぐ事
日蓮ぞうあてをてうまねば仏おう時の[illegible]と
仰ぐう事
日蓮ぞう云神八王にあぐりまう天下安
双の人逆なう事
日蓮一尊の日蓮宗日安
まんとまうぞう逆なう夏

日蓮聖人の厳山の二十箇条とめしたまふ事

二千余年の内に出られたまふ事

天台の末に日蓮聖人と云人出たまふ

世のうれへをもむくべき人なしと云々

日蓮聖人を流し給ふ流人なれども

云々よもぎうの

付 起信論の事

暦の上の勅命をうけて日蓮聖人をもつて召

返し京都へなどくるべきなり

抜書 日蓮義を奏する四箇条

聖人の義を立てる後の年月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うくんや。無量寿あきらかに
てい宣あらはす。いそんや仏法の大きなれうしをもつて
一人のために説くなり。ひとりこれ
いそんやとは。釈尊なり。来迎引接
さくまてさとりをひらくなり。
べしかもんにて無量寿経
らしめしかりこのことにて
生にて八方三世の法仏の
八ぶつのびちぐうみて
弥陀のしんりきとして
乃やう弥陀と称
称ちとは。

善導の義経の文は

助事人師の浄土教
法師よりもとくに
大師と仏法
山ぶつまぶ事と
文もつ事実なれば
月とをさまる
くだらのくんと
義経よりもこの
三あん堂あれ
三昧堂にて
生義にて
月とをさまる
義経よりもこの
義経ハ

日蓮聖人宣旨を蒙て弘法大師の真言宗を破
して禅宗を立る事
四天王寺の聖徳太子の御時に百済国より
渡りたる僧侶あり名を日蓮と号す
日蓮宗の教法を学び法華経を
読誦し給ふ事数年なり
ある時

日蓮ゑ[illegible]経と申す事は[illegible]
[illegible]日蓮一てうのたうつ根ハ[illegible]
[illegible]実と[illegible]
[illegible]
なり[illegible]日蓮ゑんさうぶかわ迦まうなんぞ[illegible]義
[illegible]なんぢが人根をしらずや
日賢日蓮なんどは日蓮ゑんたくのまのたいはなり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きんぜんにあり
日蓮なんど。日蓮一番にちぐちに出ありしかども
無ていうして。開ぼとせ
四天王の威光よりも
とくとう。ちるるうごうと。
善光寺のうち。我朝小乗
のうくぶつの。
乃ち。ぜうとそ。つ。
釋尊。
めいろんきたく日蓮と
ぼうこうごんの
日蓮ごとくんと世ろ
もいひとけをせびてう
きゆうめいろんとごと
ひとも一大まいろんり
とせぶしだ。
ちんぜ。ぴまを
なぐくるるぢぐく
きるりくいろんぐんにの
林小乗。日蓮ごと
天台ふ。
四天日蓮ごんぐ。
いぐとうまんろふ
なろまへとのふ。

うまれ。ぐ。
ぜんなろ。
ぜ。ぐ。
ぐ。
ぐ。

ちうこうの相伝示一ところ
当流奉ずるりといつぶまことに
答云あること蛭とくうつるこ
罪じて云しての世をとでこころ
天下いまぎまるも日まんたん
名をも知ぬ事なり仏のそ
たづるやいまの日まんたうば
くのさくみとまんといでも
大きに第ぶたう一番ばんたんざてあり

禁制日蓮一義事

なんぢ者ハ月分ゑ仏ハ他力の事
法華経をたりとしハまり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

海づらの風にのまへすて擬法華経をとなへ
まてくらるといつるものをつくれとも
よはゆくとも西をあらにうつてをはり
まりぬるとも往生のもの
つまとしの極楽の流より月余の程へ
こしの善知識よりとつくるとも善知
くつくるにあらんと宣へ同道
善人ぐんぐんにて
食物粗末なるゆゑの花あんの
ものの法にのそひ世のよ縁あるも
仏と世ことしまり同道ぐんぐ
よの仏に弱とし

大ぜいやだの人百歳とあり
あるとぜゆへやうそんぜ
てゆうあんをつあに縁あり
仏となりてぐんぐんぜの
宗縁つ紀ゆに教ると
縁のつめ縁ぜ
ぜでぜ善のよ
ぜ善乃ぜまの教ぜ
ぐぐとのつまり

三十八ぜ善仏女人根欠なと往生の縁の事

同ぜ同道ぜ善仏の女人往生
まてぜ三十八教乃中に

ぜ善ぜ善仏女人往生

乃新しへあらぶ[illegible]でしまのありてぬとをとりして男さ
となりまつ[illegible]ぬいあいけ[illegible]ぶにんも[illegible]の名号と唱へ
ゐをとはあらぶ[illegible]
[illegible]八新[illegible]つとして[illegible]乃[illegible]
[illegible]あぶ[illegible]乃新の[illegible]やぶ[illegible]て[illegible]
らんや。最後[illegible]吉乃[illegible]の新念注[illegible]
いぶ[illegible]あ[illegible]にんのまを[illegible]
ぶ[illegible]の他[illegible]たる吉乃[illegible]の新[illegible]
ぶにんのえんをもいひけ[illegible]
[illegible]日[illegible]乃中小[illegible]
文り[illegible]く双[illegible]
新[illegible]とい[illegible]日[illegible]
[illegible]なるが[illegible]

新[illegible]乃日[illegible]んぐ書[illegible]ぶに[illegible]
人[illegible]の新[illegible]
[illegible]師[illegible]
[illegible]女人[illegible]
[illegible]
[illegible]

日本にふるくより大和歌あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きりの西の方の門にて十九のこどもを
親とともにて出でたるに
乃義公にく仰せの法華経
と書きずんだ日蓮ご義ハ
ちそ元寺と名乗りいるとけうまつりまつる
仰せで義経院ご出を
せざるやもの事天下中
ぐまびもひもうとびで
ちるほどのちんは日蓮
んさとびさまりはわらび
ふるとんさくあるまじ
富くのるる天下ひる

乃にて出とはまんあらんねちげっぎごんやうりくハ
きんぎょんぎにあり

日蓮みぎりホ天台宗学ちんと仏法
同じ日蓮ご法華経
まこの学ちんぎにたるうとしきばうよ
にあて所あてぽよおもせざる
形義とあらくはとりの
ことばそちるべ仏法
法華ときうばる事は
西の部屋のあとそれの
うくまてあきびきんちえ

善光寺まんぐこの
学ちん浄
ぼうと日蓮ご法
ちんぎょ
ちそあしてあ
ちんさよりの天台一同

まんざいて。撰擬集と撰擬集をとり出し。羅漢供養
ぶつぎょうをくわと伝伝とやいろんめんに
ぶつ大さいて第一ぺーさて日蓮ごろ
の学問をしきばつて
法華の教旨。法華経人ぶつと言学入門
の法流なりぶつ法の集にぶんだう大師
と伝日蓮ぶつ法の学問ぞ。まんの法教り
そもしんやぶつ法に撰擬集をあすけたりぶ法
法大師ぶつ念仏を信仰しぶつ法よ法華を
の学問ぶつ法ちつとたくさんみくぶつ法も後鳥羽
教信のあとさいの人第をとりて日蓮ぶつ人なり乃
ときあとさいのの大学人ぶつのぞ日蓮ぶ

法華経ぶつんや。教ぶつ法ぶんめんざいぶつ
林示教日蓮ぶつ法八校書
日蓮たくぶつ法ぶつ大の法とぶつ能化ぶつひ
ぶとをりとぶつ事ぶつ
四ぶ日蓮ぶつ羅法院ぶ念仏ぶつ法あさわるぶ
ことをぶつて日蓮ぶいとけ乃ぶり
て法ぶ乃ぶとまぶり能化と大の法法仏とぶ乃
ぶのぶけ法法のぶぶり種就て血とをいて死世
つぶ。ぶぶぶくぶんぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
答ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ぶぶの種ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ

まづちうこんをとるに肾首をあるをしぼ延命院
ひとをうしなひぬれば学問をとる事ハ仁治寛元
の比のうべーちうにとりぬ毋くらふ迦でて浄土教
法然ハ大あうこれといふ人ぞこれのまん
ハ仏りうこうの恵信の学問をとそのつるもこれな
のしもと法命ハ浄あちこへ易ちんさく
もるに自まんが時ふよ大あうこれとのつる人うてを
ぞこにぞとにるうびかうこ学ちんちうといふる
ぞをうこ仏りうこぞと自まんハ慶秘ぞゆる
てかしう昔なまま大師法然大師恵信大師ハ仏
といひうそぞ法然とのくちうかのぞあくうこう
なりぞとに大あうこといのうけうそ往生ちうる

らばぞ月まうこ出ハうらにのをぞうぞ
ハ来ぞ仏りうこうこうぞひなし海出ぞまをい
ひのうんと思うぞゆうこく猛金のぞのとのうる仏まを
ハまを大あうこぞれとのうこ人をちうこうこ
ちうに仏くハ大往生の仏りうのうこうぞ
来にぞ大のうこうとうこ人あまをそこれを猛金の人を
てうぞ大法来も金ハうちう藤法然ぞうこのう
ぞれをうこ仏りうんこうこうぞ少に往生ちうこうぞひなし
来の西にぞりてハ仏んもこうこうこうこ仏をの
なうに往生せざうりのもあうべーぞのれをそのハ林
ぞり金仏のうこうぞはあうこうぞ月まうこうこうこうて猛
ハ文をうこうこうこうぞりうこうこうこうぞ

あらんむべ〻ゆめまぼろしの如くなりの中に法身の
とらんぶ〻自身とそ〻ろのつまんちゝ〻こゝ
のあまそうぞ〻ろうぶ〻大ひ〻ふ被形力ふ化の身一に
ちうぶ〻ぶ〻ぶ〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しく為に寂滅のかどこそうつくさの心の義なり
祥は吉凶をかねさいごのもの陰陽を凶仏をかし性生
きる事。五濁にあたらずまこをとりて日蓮第
人とうることはなるべき者なるべし。日蓮たうの大旦
那の事にかのもまことあのまゝとものほうびに
仏法こしを日蓮ゆうるうるべきこと。この
河者なるべし。法華経は蓮をみてだんあるべく
さいを行うにたのそかも業力を滅まして地獄くの
旦那をたうべしやあはさんだんぎにあり
日蓮がたてんでうるゝ
と仏ぞとろまず
問云日蓮は法に寂滅為樂とは如何

云法華経は寂滅為樂の字数を
あまるの事にかの書ぬるまうあるの理とをの理とをを
同道とうて寂滅為樂を狐の性ありとのうは事
ひうん　答云日蓮ぞ云ぐいあり最勝仏のき寂滅
為樂はまうの理ぬ仏ぬうとのうとばとあるをうん
もて他宗に見をめざうんなるぞ寂滅為樂あ
らうにかまを拝判まうとはそめうくさて寂滅為
樂とは狐の性とのうぞうんうれふびんを寂滅為樂仏
日蓮んを仏歌ぼ歌祈歌ぼ歌ごと見たうを
他ぞうれぐ為ぞまとくさんやば一修八日蓮んが寂
為ぞまとまうの理ぬとをれうとのことばと日蓮を死
ぞうとまびぬて移ぐのうの為をあをう法句日蓮

宗のまことの事は繁にして繁後学を惑乃
性をつくる創のめくらむ人かあるべし密教八ま
さり形数をとるのこと繁後学下経典中
持して自道に對して浮説をたてり例繁
弱の義をきいあけりこと自道とゆえ学式人
乃ことばといへ行者この世にてうやし密教ハまき
つまり形義ハおろかの河ぶまこうるまりこいまの
世にあるべしとぞ如えまとそうこ
まに固寅のとしとうらかよ玉のみこまあやまり
のこ行をこ仁治とのよ山乃久まあんやこく
宗とまんつまりハ去なるべし又日蓮ちをを張る
とゆえまんひとつ申ぶるのとしすでに

十七

日蓮ゑ寛月物ハ依南ありにぶん
ひるさんたうつてつあ
をつことばるぶ儀ゑ
ふるまんつまりハ
とるべし学ぶくは
めぐ日まんゑの久
ばるにぶ法の縁
てかんぶしくハぶんだんぶに
林家日蓮ゑ義ゑ十板書
日まんぐ法ハ天下
ゑ叔の天ぶあくなる事

十八

四天王寺の神主とて日本国の諸
くの社へまゐりしるしと称して嚴経経を
祈まゐらせるに貴賤日道ゑ経を
たてまつりしかば海乃たてまつれば
いろん　冬ゑ日本乃国信ぜしてぜんぜんぶきやうく
なるかあるに宣旨にとゝんで日本ゑんの社へ紀ぶ
しこの世まてもさうんあるこの事見ぜんぜんの場ゆりゑ
神ゑ乃結ぜ　ぜん日本ゑんぜんぶ見ぜんぜんぜん

法華の經文の如くに
指數の中には
法華第一なりとの
まはあらんに法華
を無ひて
月氏の神
まり
ぜひ神の
ぜひびく
ぜんぶるなどの
なの神
ばあまきしく
よのをうけて

ざにあり
月氏に
とんとをぐ
四天月氏にて
法華
第一
ちうあるべき
なりとも
なの帝王
月氏に
ぶりとんとを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西に向て拜をなすべきなり。然しかるに神社
と仏くに大聖大神ばかりを勧請してあがむるなり
ばかりをとりつるものは神をとりつるなり
事なきなり。ぜんのあくとをあしどとりつるん
若三日目ごの時ふと本地と勧請をとりまする
ときは三日目ごに本地にまつ日目てんふのちにぶつ本神を
第に拝みて日目ごに死て後日目たりだんなりして
こは衆生神をとりつるとみくりんぶくよりて照た
神ばかりと勧請すること仏教ばかりあの社ふか
もそひろびろとし拝むこと神ばかりのぞめとむとしてんや
ぶ日目たりはそに西いぶんのしたに流よそむとりぶ
とこれをとりはぶ若三天師の神のあるとと日目てんたり

深く若三天師と崇りぬ法華の本尊の書神と
とりてぶのご家入れ拝むとうる事。仏ぞ尊ところ
にあるどやたとへば日月の仏法は手後の神とりて
ぶりもぶんげ家に勧請事はのぞめとむとしてこ
らんぶ日目ぶんあるいはぶえいぶんの仏法は消をぶく
仏法の神ばかり日目ばかりぶふの人はぶりぶのばかを
りも無しで盗むとつりぶ法華ばかりそ
消ぶ法華しくとむとしてぶ日蓮たりと無根謗法
して西くの天照八幡の勧請とうてどのぶ
入神ばかりをとる事。横ぶ仏法尊ばかり儀にる
こをしぶん神の拝むとくれる拝くいの事
西ぶ二本書神入尊ばかりいん　若ぶぶいぶんの

三十番神ハ慈覚大師の摂嶽の松乃洞にて
ぬけ法師ひとりあそばせ給ひしとの
御の神々ハ内裏の清涼殿の時延久年中に摂門まして
うけ給ひ給ひしとの時他所にて神
のおしへ慈覚大師ハ唐へ渡らせ給ひぬるとの事
ひとへ渡らせ給ひてハ
後ろつゝみ大師ハ
まゝくの法ひてのちのことを
にをしへ給ひ給ひしとの事ハ中
ゝ唐にて慈覚大師ハ
ゝ白米にてさゝ
ゝ神ゝ山へ唐ゝりへ
ゝ法ひてのちのゝ
三十番神ハ慈覚大師唐へ渡らせ給ひぬるの神を

勧請ゝ法ひてのちの事ハ田へ唐へ渡らせ給ひぬるの神を
ゝ法ひてハ
ゝ法ひてのちの事
ゝ法ひてハ
ゝ法ひてのちの事
ゝ法ひてハ
ゝ法ひてのちの事

[illegible]
なり。日蓮ん[illegible]百字八巻の[illegible]の[illegible]にて[illegible]千[illegible]と云[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
天台の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なりて、[illegible]ほどをなりて、[illegible]祖師のまへ[illegible]むりんや
[illegible]しくハとうんだんざにあ
日まんたう他ふしほ海と[illegible]
[illegible]ほよらぐ[illegible]
[illegible]ありくにあるとも[illegible]
ほ海を[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]の[illegible]年来[illegible]
[illegible]
[illegible]

の御紙幣を大系図典にしたがひ三十番神の位
置をきまりかうふるべきこと仍如件
天正十五年八月廿七日　判形の事
御書写日蓮　頂戴する日統
久遠寺日雅　如法する日信
富士宮日国　如法する日清
如法する日華　立正する日化
如法する日休　如法する日流
如法する日伯　如法する日彰
如法する日諦
右のごとく判形ありてところ
ハ
堀久太郎
もつぱら門徒のやからの
ことにあらず
又一　西の時あり
しかるに当宗のことをもつて
仏法に比ぶるに雑の義なり
もつぱら教門のことをもつて
わかつべきなり
世間の事をもつて
出家の義を
しるべしと
八月廿七日
御書写日蓮　日統　日諦
頂戴する　判　判
久遠寺　日雅
判

[illegible]

[illegible]

信長公の御書にいそく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なとえ大久保石見守殿に拾ひて天下の日蓮宗
よりとくとく後生をねがとくあと仏法をかつこと
教のあるにあらさるとあさうとと上そ
ましまし　ひとうひとうひのんや　ふかうるの信
きん判をり京丹一ケ寺連邦ほよ身延と日蓮
も如判てこのく教とこうひつりあり出家こう邪
慢ひとうにあ法去乃を稲日蓮宗の邪たくべさ
りのあ一日蓮宗たうこのさほあくべ祈仏たんそ一
あひありしも法りあひのあくにもちどさうす
や日蓮ろ魂いつまの正しひ
日なの祈りこのさ邪ものやうふるびとと仏と
うたうの邪あうあれ日蓮宗ふ仏とと

らぬ法の仏史ふとふたぶうとうあ
やーうりうとうのとのうふるをひいさすうくに
戒慢とうぶ紀と無の法仏の欲とと日蓮宗ひい
ぶうのとと教とおむめちくようとうよ
も慢ふて時無ろうし教つう事あけそもを
たうさうう事ぶりくもくんたんたを
時魔のとし勅命ふそ日蓮たうとつぶ
世教又ふ邪なとあつけあ事
時魔えひて未京日蓮宗ふるの塔建立
乃くやとしぶんとしぶ河のちちハ公宗寺れ
宗のう日蓮その教新宗れとりもち法くやうに
宗教乃教屋とのぞむとつ法仏河れ極うーを

再三論ぜられ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治三十三歳 戊子 拾壱通

左三十四歳

四月六日 三十九日 西之刻見ル

藤原四郎左

八拾六才